



Title	ビルマ語における動作継続と結果残存の表現
Author(s)	大塚, 行誠
Citation	EX ORIENTE. 2026, 30, p. 13-23
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104282
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ビルマ語における動作継続と 結果残存の表現

大塚行誠

0. はじめに

本稿の目的は、日本語の「テイル」形で表される事象が、現代口語ビルマ語ではどのように表現されるかを明らかにすることである。調査にあたっては、許 [1997] の絵パネルを用い、ビルマ語母語話者 1 名（60 代女性）を対象に聞き取りを行った。

1. 基本情報

ビルマ語はミャンマー連邦共和国の公用語であり、シナ・チベット語族のチベット・ビルマ語派に属する。ミャンマー国内の話者数は約 4,200 万人と推定されている [Eberhard, Simons and Fennig 2022: 282]。現代ビルマ語には文語体と口語体の区別があり、とりわけ助詞の形式に違いが見られる。そこで、今回は口語ビルマ語を考察の対象とし、音素表記は、口語ビルマ語の教科書として日本国内で広く用いられている加藤 [2019] の表記に従う。

ビルマ語の基本語順は SOV であり、述語は文末に位置する。ビルマ語

の文は、動詞文と非動詞文に大別される。動詞文は、動詞に現実法 (realis modality) の $=tè/=dè$ や非現実法 (irrealis modality) の $=mè$ をはじめとする、モダリティを表す助詞が後接して成立する。これらのモダリティを表す助詞のことを「動詞文標識 (verb sentence marker)」と呼ぶ。

本稿では、加藤 [2019: 70] の記述にならい、(1) に示すような本動詞と動詞文標識の間に位置する助詞や助詞的機能を帯びた動詞を総称して「助動詞 (auxiliary verbs)」と呼ぶ。様々な助動詞の中でも、今回は、動作継続および結果残存の表現に関与する助動詞として、 $=nè$ 「～ている」と $=thá$ 「～ておく／～てある」を取り上げる。

- | | | | | |
|--------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|----------|
| (1) a. | <i>kwé</i>
break(vi.) | $=nè$
=AUX:stay | $=dè.$
=REAL | 「割れている。」 |
| b. | <i>wu?</i>
wear
本動詞 | $=thá$
=AUX:put
助動詞 | $=dè.$
=REAL
動詞文標識 | 「着ている。」 |

2. 調査結果：5つの事象に対する表現

以下、絵描写タスクの絵パネル [許 1997] を用いた調査の結果を示す。いずれの文においても助動詞 $=nè$ 「～ている」が現れる。この助動詞 $=nè$ は、「居る、存在する、住む」を意味する自立語の動詞 *nè* に由来する [大野 2000: 325]。動詞 *nè* が本来有していた語彙的な意味が希薄化し、動作継続や結果残存、一時的な状態を表すようになったと考えられる。

2.1 〈子どもが川で遊んでいる〉

- (2) *khǎlé=dwè* *cháun-dê=hmà* *shô=nè=dê*.
 child=PL creek-inside=LOC play=AUX:stay=REAL
 「子どもたちが小川の中で遊んでいる。」

2.2 〈カップルが座っている〉

- (3) *zòundwé* *dǎ-dwé* *khòun-bò=hmà* *thàin=nè=dê*.
 couple one-pair bench-on=LOC sit=AUX:stay=REAL
 「一組のカップルがベンチに座っている。」

2.3 〈電気がついている〉

助動詞 *=nè* 「～ている」は、(4a) のような動態動詞 *pwín* 「開く」のみならず、(4b) のような状態動詞 *lín* 「明るい」とも共起可能である。助動詞 *=nè* が状態動詞と共起する場合は、一時的な状態を表す [Myint Soe 1999: 191]。

- (4) a. *mí* *pwín=nè=dê*.
 electricity open(vi.)=AUX:stay=REAL
 「電気がついている。」
 b. *mí* *lín=nè=dê*.
 electricity bright=AUX:stay=REAL
 「電気が（今は）明るい状態である。」

2.4 〈お金が落ちている〉

- (5) *pai?shàn=gā* *cán-bò=hmà* *pyáncé=nè=dê*.
 money=NOM floor-on=LOC scatter(vi.)=AUX:stay=REAL
 「お金が床の上に散らばっている。」

2.5 〈窓が割れている〉

- (6) *bădixbauʔ-hmàN=gâ* *kwé=nè=dê*.
window-glass=NOM break(vi.)=AUX:stay=REAL
「窓ガラスが割れている。」

3. 考察

3.1 語彙アスペクトによる動詞分類と助動詞 *=nè*

ビルマ語の品詞は、動詞、名詞、助詞、間投詞（および副詞）に大きく分かれる。

加藤 [2015] によると、動詞は語彙アスペクトの観点から動態動詞と状態動詞に二分される。例えば、*shí*「遊ぶ」のような動態動詞に現実法の動詞文標識 *=tè/=dê* を付加して *shí=dê*「遊んだ」とした場合、発話時点において継続している事象を表すことができず、基本的には過去の事象を表す（ただし、習慣的な事象は発話時点において継続する事象と見なさない）。一方、*lín*「明るい」のような状態動詞に現実法の動詞文標識 *=tè/=dê* を付加して *lín=dê*「明るい」とした場合には、発話時点において継続している状態を表すことができる。

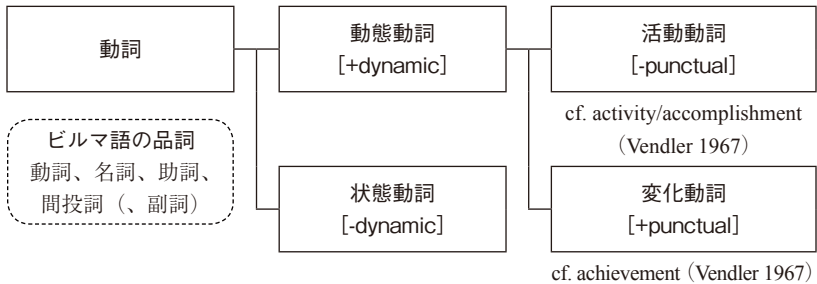


図1 語彙アスペクトに基づくビルマ語の動詞分類
(加藤 2015 の記述を基に筆者作成)

加藤 [2015] によれば、動態動詞はさらに活動動詞と変化動詞の2つに下位分類される。継続性を有する活動動詞は、Vendler [1967] の activity および accomplishment を包括するものであり、本分類において限界性に基づく区別はなされない。これに対し、継続的ではない変化を表す変化動詞は、Vendler [1967] の achievement に対応する（図1参照）。

3.2 助動詞 =nè における動作継続と結果残存の用法

時間的な幅のある出来事を表す *shô* 「遊ぶ」のような活動動詞は、助動詞 =nè 「～ている」と共起すると、(2) で示した通り、動作継続のみを表す（図2参照）。

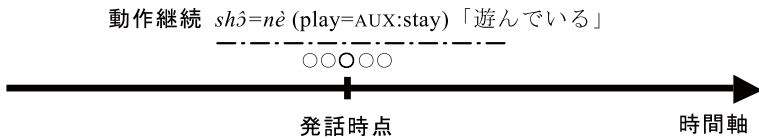


図2 活動動詞 *shô* 「遊ぶ」に助動詞 =nè が付加して動作継続を表す例

一方、*kwé* 「割れる」のような変化動詞は、助動詞 =nè と共起すると、(6) で示した通り、結果残存を表すことが多い（図3参照）。

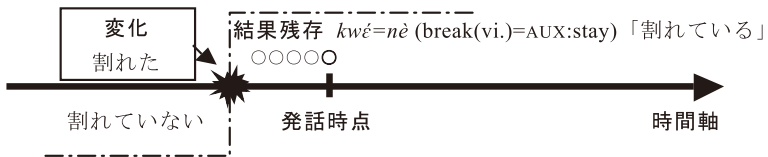


図3 変化動詞 *kwé* 「割れる」に助動詞 =nè が付加して結果残存を表す例

ただし、この変化動詞は、結果残存だけでなく、文脈によっては動作継続を表すこともあると加藤 [2015] は指摘している。例えば、変化動詞の *pye?* 「壊れる」は、助動詞 =nè と共起すると、*ká pye? =nè =dè*. (car break(vi.)=AUX:stay=REAL) 「車が壊れている。」[加藤 2019: 162] のように、「壊

れた結果が継続している」という結果残存の意味を表すこともあれば、「壊れる過程にある」という意味で動作継続を表すこともある [加藤 2015: 6]。

加藤 [2015: 10] が変化動詞に分類する動詞 *cá* 「落ちる」の場合も同様である。助動詞 *=nè* を付加すると、(7) のように動作継続を表すこともあれば、(8) のように結果残存を表すこともあることが、絵パネル [許 1997] による調査の中でも確認された。

(7) 動作継続の例：

yèpai?gáun=gâ *yè=dwè* *câ=nè=dè.*
faucet=ABL water=PL fall=AUX:stay=REAL
「蛇口から水が^が（流れ）落ちている。」

(8) 結果残存の例：

cán-bǝ=hmà *pai?shàn* *câ=nè=dè.*
floor-on=LOC money fall=AUX:stay=REAL
「床の上にお金が落ちている。」

なお、(4b) に示した通り、助動詞 *=nè* は *lín* 「明るい」などの様々な状態動詞と共に起することもある。その場合、「現時点ではその状態にある」という意味で一時的な状態を表すと考えられる [Myint Soe 1999: 191]。

本節の考察結果から、語彙アスペクトによるビルマ語の動詞分類と助動詞 *=nè* の用法の対応関係をまとめたものが、以下の表 1 である。

表 1 語彙アスペクトによるビルマ語の動詞分類と助動詞 *=nè* の用法

	動作継続	結果残存	一時的な状態
活動動詞	+	-	-
変化動詞	(+)	+	-
状態動詞	-	-	+

以上、絵パネル [許 1997] による調査に基づき、日本語の「テイル」形を用いた表現と、それに対応するビルマ語の表現との関係を整理したものを、表 2 に示す。表 2 からは、日本語の「テイル」形が、ビルマ語の助動詞 *=nè* を用いた表現に概ね対応していることが読み取れ、両者の用法に一定の類似性が認められる。

表 2 日本語の「テイル」形とビルマ語における助動詞 *=nè* を用いた表現の比較

日本語		ビルマ語	
遊んでいる	動作継続	<i>shô=nè</i> <i>play=AUX:stay</i>	「遊んでいる」 動作継続
座っている	結果残存	<i>thàin=nè</i> <i>sit=AUX:stay</i>	「座っている」 結果残存
ついている	結果残存	<i>lín=nè</i> <i>bright=AUX:stay</i>	「明るい状態にある」 一時的状態
		<i>pwín=nè</i> <i>open(vi.)=AUX:stay</i>	「開いている」 結果残存
落ちている	結果残存	<i>pyáncé=nè</i> <i>scatter(vi.)=AUX:stay</i>	「散らばっている」 結果残存
割れている	結果残存	<i>kwé=nè</i> <i>break(vi.)=AUX:stay</i>	「割れている」 結果残存

3.3 助動詞 *=thá* における結果残存の用法

結果残存に関連する表現としては、助動詞 *=nè* 「～ている」に加え、助動詞 *=thá* 「～ておく／～てある」もよく用いられる。この助動詞 *=thá* は、「置く」を意味する動詞 *thá* に由来する [大野 2000: 279]。ミャンマー言語委員会のビルマ語辞典は、助動詞 *=thá* を、[1] 存続していることを表す語、または [2] 前もって完了させておくという意味を添える語、と定義している [Myanmar Language Commission 1991: 165]。

また、Myint Soe [1999: 220–222] は、助動詞 *=thá* が、ある行為が完了し、

その状態が保たれている、あるいは維持されていることを示すほか、現在の状態が過去の出来事の証拠となっている場合にも用いられると述べている。

さらに、本行 [2014: 102–111] は、助動詞 *=thá* が意志的な他動詞と特に共起しやすい一方、次の①から③の3つの条件を満たす場合にはさらに多様な動詞とも共起しうると述べている：

- ① 発話の現在において V（動詞の表す事象）している最中にないこと
- ② V し終わったあとに、V したことによる効果・影響が保たれていること
- ③ V したことによる効果・影響が分かりやすいこと、または V したことによる効果・影響が文中または前後の文脈から明らかであること

[本行 2014: 168]

例えば、絵パネル [許 1997] に描かれている「着物を着た女性」について述べたビルマ語の文は、以下の (9a) のように、助動詞 *=thá* を用いて結果残存を表す。一方、(9b) のように助動詞 *=thá* ではなく、助動詞 *=nè* を用いると動作継続を表す。

- (9) a. *ḡù* *kìmòònò* *wuʔ=thá=dè.*
 3SG Kimono wear=AUX:put=REAL

「彼女は着物を着ている。」

- b. *ḡù* *kìmòònò* *wuʔ=nè=dè.*
 3SG Kimono wear=AUX:stay=REAL

「彼女は着物を着ている。／彼女は着物を着ているところだ。」

次の例として、絵パネル [許 1997] に描かれている「雪が降り積もった山」について述べたビルマ語の文を、(10) に示す。(10a) では助動詞 *=thá* で結果残存を表しているのに対し、(10b) では助動詞 *=nè* で動作継続を表している。

本行 [2014: 122–125] にも一部指摘がある通り、*mó ywà* 「雨が降る」や *mí*

làun 「火事になる」、*lè tai?* 「風が吹く」、*nè pù* 「日が照る」、*mó ?óun* 「曇る」、*ṇǎlyin hlou?* 「地震が起こる」、*yè cí* 「河川が氾濫する」などの自然現象に関する表現については、それらの出来事の結果として生じた状態が存続していることを表す際に、助動詞 *=thá* を用いる。

- (10) a. *tàun-bò=hma* *hnín* *cá=thá=dè*.
 mountain-on=LOC snow fall=AUX:put=REAL
 「山の上に雪が降り積もっている。」
- b. *tàun-bò=hma* *hnín* *cá=nè=dè*.
 mountain-on=LOC snow fall=AUX:stay=REAL
 「山の上に雪が降っている。」

以上のことから、自然現象を含めた、継続性のある事象において、その完了時点で生じた状態が存続している場合、あるいは何らかの事象が以前生じていたことを示す形跡が発話時点において確認できる場合には、助動詞 *=thá* で結果残存を表すと考えられる。

4. まとめ

ビルマ語の助動詞 *=nè* 「～ている」は、動作継続、結果残存、あるいは一時的な状態を表す。動態動詞のうち、時間的な幅のある事象を表す活動動詞と共起する場合は、動作継続を表す。一方、継続的ではない変化を表す変化動詞と共起する場合は、主に結果残存を表すが、文脈によっては動作継続を表すこともある。以上の点において、助動詞 *=nè* は日本語の「テイル」形と類似している。しかし、助動詞 *=nè* は状態動詞とも共起し、一時的な状態を表しうる点で、日本語の共通語における「テイル」形とは用法を異にする。

さらに、本稿では、助動詞 *=thá* 「～ておく／～てある」を用いて結果残存を表す場合があることについても述べた。「着る」という動作や「雪が降る」

という自然現象を具体例として取り上げ、自然現象を含む、継続性のある事象において、その内在的な限界に到達した後、その結果として生じた状態が存続している場合、あるいは何らかの事象が以前生起していたことを示す形跡が発話時点においても確認できる場合には、助動詞 =*thá* を用いて結果残存を表すと指摘した。

[謝辞]

本稿は、科研費（課題番号：21K00480）による研究成果の一部である。Htet Htet 先生（大阪大学特任准教授）には本調査に際し、多大なご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する。ただし、本稿に残る誤りや不備はすべて筆者の責任によるものである。

[略号一覧]

-: morphological boundary, =: clitic boundary, 3: third person, ABL: ablative, AUX: auxiliary verb, LOC: locative, NOM: nominative, PL: plural, REAL: realis, SG: singular, V: verb, vi.: intransitive verb.

[参考文献]

大野徹

2000 『ビルマ（ミャンマー）語辞典』大学書林、東京。

加藤昌彦

2015 「ビルマ語の事象キャンセル」『EX ORIENTE』22, 1-36。

加藤昌彦

2019 『ニューエクスプレス プラス ビルマ語』白水社、東京。

許夏珮

1997 「中・上級台湾人日本語学習者による『テイル』の習得に関する横断研究」『日本語教育』95, 37-48。

本行沙織

2014 「現代ビルマ語の継続を表すアスペクト形式の研究」博士論文、大阪大学。

Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig (eds.),

2022 *Ethnologue: Languages of Asia. Twenty-fifth edition*. SIL International, Dallas, Texas.

Myanmar Language Commission

1991 *mran'mā'abhidhān'* [Myanmar Dictionary]. Myanmar Language Commission, Yangon.

Myint Soe

1999 *A Grammar of Burmese*. Ph.D. dissertation, University of Oregon.

Vendler, Zeno

1967 *Linguistics in Philosophy*. Cornell University Press, Ithaca, NY.